

2019 年度 学校関係者評価委員会

日時	2019年9月10日(火) 13:30~15:30	場所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 トラベルサロン (8号館6階)	進行	原田
	議事		竹ノ谷		
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・原田 正隆 (千葉市民活動支援センター センター長) ・小亀 さおり (千葉市経済農政局経済部観光プロモーション課) 【新任】 ・横山 隆 (京成ホテルミラマーレ 総支配人 兼販売促進 統括部長) ・岩崎 正佳 (株式会社タビックスジャパン成田支店 マネージャー) 【ご欠席】 ・山口 晋司 (千葉都市モノレール株式会社 総務部総合調整担当部長) 				
	<p><学校職員> *オブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢口 博士 (校長/本部長) ・竹ノ谷 卓也 (本部長補佐/広報室長) ・檜崎 さやか (学務室リーダー) 				
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度重点方針の確認 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 2. 2018年度自己評価 ・評価の基本方針、実施方法、公表、評価項目 3. 意見交換 				
議事録	<p>【配布資料】2018年度自己点検評価表、入学案内書</p> <p>新任委員2名のご紹介の後、進行原田氏により委員会を開会した。 学校より2018年度重点方針の確認及び活動報告、本年度に定めた重点的な取組みが必要な目標や計画を説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度重点方針の確認 学校より2018年度の重点方針の説明と確認をした。また、募集、就職、検定、学生満足度等の状況を報告した <ol style="list-style-type: none"> (1) 安定した学生数の確保：経営的な観点及び授業活性のためにも不可欠 (2) 企業と連携した教育課程編成と学修成果の向上：在校生だけでなく、卒業生も含めた学修成果 (3) 学生満足度の向上：入学して良かったと思ってもらえるように努力する (4) 学生の希望に合わせた進路決定率の向上と内定後の指導：学生ニーズを捉えた就職先の斡旋 (5) 退学者の低減：今後も最小限に抑えていく (6) チームワークのとれた組織の円滑な運営と職場環境改善：一体感のある組織 2. 2018年度自己評価 ※【評価 前年→今年】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育理念・目標について <ol style="list-style-type: none"> 4：理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか。【評価 3→4】 →新たに魅力ある千葉市への観光企画提案や企業での実習など相互の協力連携を強くしている。 5：社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。【評価 3→3】 →ニーズを捉えるため関連する会合等にも参加し、将来構想を継続して考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">学校関係者委員からの質問・意見</div> <p>小亀氏：魅力ある教育活動の中に『千葉あそび』とのタイアップ授業が組み込まれていることに感謝。 学んだこと、調べたことをプレゼンで伝える喜びを学生が感じられたら将来に繋がると思います。 学校：お互いにWin-Winになれるように引き続きご指導頂き切磋琢磨していきたい。</p> (2) 学校運営について <ol style="list-style-type: none"> 5：人事、給与に関する規定等は整備されているか。【評価 4→4】 →人事・給与に関する規定は学園総務部が担当しており、18年度には働き方についても話し合わせ、人事考課表、就業規則の一部改訂が行われた。 6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。【評価 3→3】 →企業連携科目では契約書または協定書を取り交わし、問題が発生しないよう対処している。 学校文書の管理規定がない。 8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。【評価 2→2】 				

→予算会計については、新しいシステムが導入され、全職員が慣れるまでは時間を要す。
出勤日数及び勤務時間の管理表がパソコン上で自動計算されるようになり効率化が図られた。

学校関係者委員からの質問・意見

原田氏：文書管理について、方法や期間についてマニュアルを作成し、整備した方が良い。

(3) 教育活動について

4：キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。【評価 3→3】

→就職筆記対策授業を学生の個人レベルに合わせ 6 クラス体制へ変更した。

6：関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。【評価 3→3】

→各科ごとに企業と連携した実習を行っている。

ホテル科・ブライダル科・テーマパーク科は企業実習を一定期間必修で教育課程に入れており、他の学科でも企業(現場)に行き説明や体験ができる内容としている。

13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか。【評価 2→2】

→研修の啓蒙に努めているが、専門分野の資質向上についての研修は十分とは言えない。

受講した研修の内容については教職員間で共有している。

学校関係者委員からの質問・意見

岩崎氏：就職筆記対策のレベル別クラスは学科毎か、学年全体か。

学校：学年全体をブレイクテストにより 6 レベルに区分した。

岩崎氏：自分が学生時代は英語のレベル別クラスが全ての授業クラスになっていたの、学力差がなく大変良かった覚えがあるが、学力別を他の授業などにも活かさないか。

学校：英会話については全体のレベル別で少人数制としている。また学科によっては各科だけの授業をレベル別にするなどもある。

横山氏：レベル別のクラス分けの変更は。

学校：前後期制のため、原則は半期に一度、本人希望、テスト結果、講師評価などにより変更可能。

(4) 学修成果について

2：資格取得率の向上が図られているか。【評価 3→3】

→18 年度ブライダル科の検定(ブライダルコーディネーター技能検定)が国家検定化され、放課後に合格に向けた対策補講を実施した。

4：卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。【評価：2→2】

→企業訪問、校内説明会、実習巡回から卒業生情報を聞き取っている。企業側から活躍や異動などの情報を提供いただける企業も増えてきた。校内で行われる企業説明会にも卒業生が同行し在校生に有益な情報を伝えてくれている。

学校関係者委員からの質問・意見

2：資格取得率の向上が図られているか

小亀氏：ブライダルコーディネーター技能検定の 100 名受験はブライダル科学生全体何名に対してか。

学校：1～2 年生合わせて約 120 名程度。

横山氏：ブライダルコーディネーター技能検定を落ちた理由は。

学校：筆記合格で実技不合格やそもそも補講に参加していないなど本人のやる気が薄い学生がいた。

岩崎氏：(補講内容を確認した後) 補講にするから参加しづらいのでは？ 正規の授業だけで取得に向けられないのか？

学校：正規授業もすでに対策授業としてあり、プラスαの補講。学科の教育効果を考えたバランスもあり現状のもので対策授業や補講が不足している感はない。但し、旧 ABC 検定から国家検定化した第一回の試験だったこともあり、次年度はより充実した試験対策に変更出来る予定。

岩崎氏：国家資格は一生もの。必ず持っていた方が良い。

別件、就職では、在校生と卒業生の縦のつながりを構築できると非常に有益である。

(5) 学生支援について

2：退学率の低減が図られているか。【評価 4→3】

→担任による個人面談を実施し、問題の早期発見・解決に努めていたが、結果的に 1 年・2 年とも前年より

多くなった。

5：学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。【評価 4→4】

→当校への進学希望者、在校生に対し、学生支援機構の奨学金や学校独自の学費サポート制度と併せ、個別の相談に応じている。

学校関係者委員からの質問・意見

小亀氏：ここまでの話を聞く限り、かなり手厚く、細かなケアをされているにも関わらず退学者が増えた理由はどのようなものか。

学校：自信喪失、経済的、精神的理由が多くなってきている。学校入学以前から退学不安を抱えている学生が増えているかもしれない。学校でコミュニケーションをとることが難しい学生もいる。

原田氏：10・社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているかに対して評価 2 は低すぎないか。夜間部の設置と社会人の入学許可をしている時点で十分な対応と思える。

学校：社会人の学び直しなどの受け入れがなく、検討段階であることを考えると、充分対応しているとは言えないと考えている。例：他校の資格取得に特化した OPEN 講座など。

(6) 教育環境について

1：施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。【評価 3→3】

→18 年度は学生用パソコンを全て新しいものに入れ替えた。また、効力が弱く、匂いの問題もあった 2 号館のエアコンも全ての教室で入れ替えた。

2：学校設備・備品等が定期的に管理・点検されているか。【評価 3→3】

→18 年度は半期に 1 度、長期休みの期間を利用して、教職員による什器点検、備品確認を実施した。

3：学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。

→全員が実習を実施できている学科は、ホテル科、ブライダル科、テーマパーク科。

5：学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。【評価 2→3】

→全教職員が館内の防災設備について知るため防災関連の館内ツアーを実施した。

自然災害による停電などの非常事態の備えとして、学園の各館をつなぐトランシーバーを設置した。

学校関係者委員からの質問・意見

3・校外実習、インターンシップ等

小亀氏：エアライン科がエアライン業界での実習を全員出来ていないということに気になっているが、採用側としては、エアライン業界での実習には拘っていない。むしろホテルでの実習など異業界での実習経験の方が気づく点や成長できる点がある。

学校：職業実践専門課程取得では学科と業界の連動が必要。但し、教育的効果を考えると仰る通り。柔軟な対応を検討しても良いと思う。

4・5 防災安全管理

横山氏：学生の安全第一という観点では何があっても対応できるように考えておく必要がある。

ホテルも学校も何処からでも誰でも出入りできてしまう公共性が、防犯面では大きな弱点。

学校：防犯カメラの設置箇所を増やすなど対策をし不審者侵入への対応はある程度出来ているが、全ての教室内にカメラ設置などは現実的には難しい。また内部の学生や職員を疑うことは苦渋の極み。そもそもそうした事案が起きない環境にする指導が引き続きの課題である。

原田氏：この防犯安全管理の項目は対象が広すぎると思う。災害対策をはじめ、一般的な防犯安全管理対策としては正しいし、十分クリアしているレベルだと思うのでもっと評価を上げて良いのではないか。

学校：安全に完全なゴールはない。引き続き、油断することなく様々な事例への準備、予防策を考え実行していく。

(7) 学生の受け入れ募集について

2：学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか。【評価 4→4】

→適切、効果的に行っており、出願者も前年より増やすことができた。

ただし、18 歳人口の減少、高校生の就職率向上、大学進学率上昇といった状況の中で入学者を確保していかなければならない。

3：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。【評価 4→4】

→就職実績や検定合格率といった教育成果は入学案内書やホームページで伝えている。ホームページについては教育成果も含め、情報公開を閲覧者が見やすいように改善した。

学校関係者委員からの質問・意見

特になし

(8) 財務について

- 3：予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか。【評価 4→3】
→年度単位で室、学科ごとに収入・支出の予算を策定し、月割り予算計画を立てている。
四半期で予算実績管理を行っており、学園の会議にて増減理由の確認が行われる。
18年度については、単純な計上ミスがあったため予算担当者に注意指導を行った。

学校関係者委員からの質問・意見

特になし

(9) 法令等の遵守について

- 3：自己評価の実施体制を整備し、問題点の改善を行っているか。【評価 2→3】
→学校の自己評価については、18年度より学内各部署よりメンバーを選出し、チームで1年間の取り組みや実績を振り返り、討議して評点を決めるようにした。課題点として上がったものは、職員会議で取り上げ、改善策を検討している。

学校関係者委員からの質問・意見

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献について

- 2：地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか。【評価：2→2】
→アビリンピック(全国障害者技能競技大会)へホテルサービス競技の審査員として参加している。
3：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。【評価：2→2】
→学生組織 SAM を中心にボランティア活動を実施していたが少なかった。
ペットボトルキャップの回収は行っている。

学校関係者委員からの質問・意見

原田氏：学生ボランティアについては今後、情報を積極的に出したい。但し、学校が管理しすぎると本来のボランティアという趣旨からは離れてしまうかも知れない。

学 校：機会を提供する観点から、情報提供はぜひお願いしたい。

(11) 国際交流について

- 1：留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか。【評価：4→4】
→増加する留学生に対応する独立事業部を設置している。
2：留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。【評価：4→4】
→18年度も適正校として認定を受けている。
3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。【評価：4→4】
→担任制をとっており、就職、行事、生活指導を行っている。就職指導については、日本人の就職担当からも情報を得て希望者ひとり一人対応している。日本人学生と交流する方法を検討したい。

学校関係者委員からの質問・意見

特になし

(12) 職業実践専門課程について

- 7：教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修を計画的に行っているか。【評価 2→2】
→専門分野における実務研修への教員の受講意識は高いが、通常授業や学生対応のため時間が割けない事情がある。
13：ホームページにおいて学校運営、教育活動等に関する情報提供内容は適切か。【評価 4→4】
→18年度については、プロジェクトを設けて組織的にガイドライン項目の理解を深め、見る側の視点に立った適切で見やすい情報公開となるよう全面的にリニューアルを行った。

学校関係者委員からの質問・意見

7・8：企業と連携した教員に対する研修

小亀氏：研修とまではいなくても、専門分野の読書による知識習得や業界・現場との交流会など情報を

得る機会をとるということでも良いのではないか？

横山氏：ホテルは求められれば喜んで現場の情報提供に協力したい。

原田氏：職員同士の授業スキル情報の交換なども良い。大学などでは積極的に始めているようだ。

学校：情報を得る機会としては、企業説明会や卒業生との情報交換などは日常的に実施できている。今後はそれらの情報共有方法などを検討し、研修という考え方との整合性を検討してみたい。

13・14 情報の公開・提供

小亀氏：HP だけでなくフェイスブック、ツイッター、インスタなど SNS のページを持ってはどうか。また、外国人への情報提供も考えると英語での情報提供なども検討しても良いのではないか。

学校：広報活動として各種 SNS は既に稼働している。但し、HP と並ぶ程の情報提供はされていない。時代の流れにより、高校生や保護者の主とする利用 SNS ツールも変化する為、状況に応じて対応できるようにしたい。

(13) 観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組

15：学生アンケートや授業アンケート等を実施し、意見や結果を学生指導や授業改善に反映しているか。

【評価 3→3】

→授業改善アンケート(半期に1回)、学園生活アンケート(1年に1回)実施しており、アンケート結果は、集計し、職員会議で共有確認される。改善に向けた取り組みは行っているが、費用的に難しいものや時間を要するものもある。

学校関係者委員からの質問・意見

特になし

各委員より一言頂戴し、進行原田氏が委員会を閉会した。

《ご欠席の山口氏より頂いたご意見・ご提案》

1. 自己点検総合評価（平均）について

総合評価において、前年度より「0.1」ポイント上昇したことは、学校の前向きな取り組みの成果であると考え。次年度の目標において、特に評価の低い項目（「2」評価）について、何か一つ自己目標を設定のうえ実施することにより、評価を「3」にアップできるのではないかと思慮される。

2. 評価「2」に対する意見

(2) 学校運営 8. 情報システム

新システムが導入されており、実際の運用面において時間が必要と理解できる。

次年度は「3」評価以上が期待できるので問題はないと思う。

(3) 教育活動 11-14. 教員・教員組織

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成について、適切なカリキュラムを見つけることは、容易ではないと思う。当社では、自己啓発の一環として、在職年数に応じた年間研修カリキュラムを各課で作成し、専門的な講習会に積極的に参加させている。その中には、AED（心肺蘇生）の研修、ワンペーパーで資料を作成する研修など様々。また、社員全員が年間目標を作成のうえ上司に申告を行い、中間と期末に達成状況の面談を実施する「評価制度」を採用している。自分で目標を設定させる、また、専門という観念にこだわりすぎないということも重要。学校の中で実施できる活動もたくさんあると考える。

(4) 学修成果 3-4. 卒業生・在校生の社会的評価

現在、実施されている活動が継続されていれば、「3」評価で良いのではないか。

(5) 学生支援 5-7. 学生生活

企業では、安全委員会、衛生委員会を設置することが労働安全衛生法で定められている。

学校内で衛生委員会等を設置し、例えば、インフルエンザの季節は対策として、「うがい・手洗いを奨励するポスターを貼る」、「トイレにうがい薬と紙コップを設置する」などの活動を行ってはどうか。そこに学生の代表が参加できるとより良い活動となる。

なお、当社では、セキュリティ会社などが提供している「災害時の安否情報確認システム」を導入。災害時に社員へ安否確認を自動で発信し集計するシステムで、会社の被害状況などの情報発信もできるほか、日頃の訓練にも利用できる。学生の安全対策面としてのPRに活用できるのでは。

(5) 学生支援 9・10.卒業生・社会人

夜間部の設置等の活動が行われているならば、「3」評価でもよいのではないか。

(10) 社会貢献・地域貢献 1・2. 社会貢献・地域貢献

営利企業にとって地域貢献は悩ましい課題。しかし、地域との連携は学生が通学時に地域の方と接触するなど、学校の運営にとって好ましい関係を築いていかなければならないと考える。当社においても自社で準備している防災用品などを地域の方々にも可能な範囲で提供することを考慮し自社の備蓄を行っていくこととした。学校の社会的貢献としてPRできる材料となることから検討してはどうか。学生には、災害時に自治会と一緒に行動するなどの自治会と連携協定を締結するなど、年に1回でも良いので防災訓練時を利用して学生と自治会が意見交換を行う場を設ける検討をしてはどうか。

<当社で実施している事項及び今後の検討事項>

①帰宅困難者の一時待機場所として駅を提供する。

→必要備品として、アルミ泊ブランケット、毛布、仮設トイレ（段ボール式）、救急用品を備蓄品として準備。

②車両基地に防災井戸の設置

→飲料対応で計画。地域の方にも利用できるよう検討。

③備蓄食料の消費期限に近い物品（入れ替え時）を近くの自治会に提供

→自治会の防災訓練で活用してもらう前提で、事前に話しをして希望があった自治会に提供した。

④蓄電バッテリーを購入予定

→災害時の携帯電話充電ができるように計画。室内用としては、現在の発電機から蓄電バッテリーへ転換する方針とした。

（蓄電バッテリーは性能が向上し、約700台程度の充電が可能な性能を有している。）

<学校への提案>

①自治会の防災訓練にノベルティーを提供する。

→訓練参加者に防災を啓発する「名入りノベルティー」を提供する。

②周辺自治会と災害協定を結ぶ

→学校は鍋釜等の備品と炊き出し用食料を購入し保管。災害時に自治会に貸し出して自治会の方には炊き出しをお願いする。学生も利用できるよう相互に利点のある内容とする。

以上